

キャビクライオⅡ 不具合が起こった際の対応マニュアル

【吸引が弱くなった】

まず本体が原因なのかクライオヘッドが原因なのか特定します。

クライオヘッドを本体から外します。

本体横のフィルターカップを外して空気が漏れないように手を当てて吸引をスタートさせます。

本体後ろのクライオヘッド接続部の真ん中の吸引用差込口に指を当てて指がしっかり吸い付くか試してください。

吸い付きが弱かったりほとんど吸わない場合、本体の点検修理をご依頼ください。

指がしっかり吸い付く場合は、本体横のフィルターカップを取り付け直して再度吸引用差込口に指を当ててみてください。

フィルターカップの締め付け不良で吸引が弱くなる場合があります。締め付け過ぎても吸引力が低下する場合があります。 本体の吸引確認方法

本体の吸引機能は問題ないがクライオヘッドを接続すると吸引が弱くなる場合はクライオヘッドの修理をご依頼ください。

※機械が冷えている時は吸引ポンプが本始動するまで時間がかかる場合があります。(施術前に5～10分程吸引レベルを30～50%にして暖気運転してください)



【冷却しなくなった】

冷却をスタートした際、クライオヘッド吸引カップ奥にLEDの青い光が点いていますか？

青いLEDが点いているのに冷却板が冷えていない場合、クライオヘッドの点検修理をご依頼ください。

本体とクライオヘッドを一旦取り外し、再度接続し直してみてください。冷却が復活(青LEDが点灯)することがあります。

本体とクライオヘッドを接続した状態で本体に近い部分のグレーの布カバーを左右に揺り動かしてみてください。

青LEDが揺り動かすタイミングに合わせて点いたり消えたりする場合、本体とクライオヘッドを電源供給端子の接触不良が考えられます。

本体とクライオヘッドの点検修理をご依頼ください。

【冷却が弱く感じる】

クライオヘッドのペルチェもしくはセンサーの機能低下が考えられます。クライオヘッドの点検修理をご依頼ください。

【クライオをスタートさせた途端警告音が鳴りだした】

クライオヘッドの白いケース内部の電子基盤が水分等に濡れて警告音が鳴り続ける故障が発生した可能性があります。

しばらく放置し内部を乾燥させると復活する場合がありますが、電子基盤の誤作動による事故(やけど等)が起こる可能性があります。

クライオヘッドの点検修理をご依頼ください。

【クライオ施術中に警告音が鳴り始めた】

冷却水の水温が上昇した場合に鳴ります。夏の時期の連続施術した際にも鳴る(オーバーヒート)場合があります。

直ちに施術を中止し冷却水が循環しているか確認してください。

夏の時期の連続使用はできるだけ避け、施術の間隔を空けることでオーバーヒートを避けることができます。

冷蔵庫で冷やした冷却水に入れ替えることで連続施術をしているサロン様もごぞいます。

冷却水が循環していない場合、循環ホースを使用して空気抜き(エア抜き)を行ってみてください。

本体に循環ホースを接続しても冷却水が循環していない場合、本体の点検修理をご依頼ください。

本体の冷却水が循環しているにも関わらず警告音が鳴り出す場合、冷却水の循環経路内に汚れが溜まり流れが悪くなっている可能性があります。

本体とクライオヘッドの点検修理をご依頼ください。

【クライオヘッド洗浄の際の注意事項】

給水ボトルでホース内のジェルを洗浄した際は、ホース内の水をしっかりと抜いてから本体に接続してください。

ホース内に水が残ったまま本体に接続しますと、本体内部の吸引ポンプや吸引制御電磁弁に水が浸入し吸引不良等の故障の原因となります。

本体横のフィルターカップに水が溜まった場合は、そのまま放置せずこまめに水を捨てることで本体内部への水の浸入を防ぐことができます。

クライオヘッド吸引カップ上の白いケースに水がかからないように注意して洗浄してください。

白いケースの内部には電子基盤が入っており、水分等に大変弱く濡れると冷却しなくなったり警告音が鳴り続けたりする等故障の原因となります。

※ホースの洗浄や冷却水の補充に使用する給水ボトルは精製水専用のものを使用してください。アロマオイルやジェルを混合したボトルを使用

しますと、冷却水用タンクや循環経路内に不純物が残り故障の原因となります。

本体冷却水エア抜き

